

平成26年度 水戸第二高等学校自己評価表

目指す学校像	<p>○ 豊かな人間性、積極的な実践力、合理的で公正な判断のできる叡智、たくましく生きるための健康や体力を備え、平和な国家・社会の進展に貢献できる品位と教養ある人材の育成を目指す学校</p> <p>1 生徒ひとりひとりの学力を伸ばし、進路希望実現を図る学校</p> <p>2 特別活動や各種部活動が盛んな活力ある学校</p> <p>3 生徒・保護者・地域から信頼される魅力ある学校</p> <p>4 社会規範を身に付け、広く社会に貢献できる良識ある指導者を育成する学校</p>			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<p>1 ほとんどの生徒が大学進学を目指し、震災後の不自由な学習環境にもかかわらず25年度卒業生の約43%が筑波大学12名を始め、国公立大及び難関私大に合格するなど、例年に劣らぬ結果を残した。今後、国公立大学及び難関私大の合格率アップと、生徒の進路希望実現に向けて、更にきめ細かな援助指導が必要である。</p> <p>2 入試制度に対応した教育課程の編成や、授業以外に、平常や長期休業中の課外及び土曜日に実施している全学講座等の充実を図り、効果を上げた。</p> <p>3 地域の要請に応じて、各種行事等に積極的に参加し、品位と教養に富み、周囲から信頼されるリーダーを育成している。また、部活動の活性化が図られ、生徒の約8割が部活動に参加し、自律的で責任ある生活態度の育成に大きな成果を上げた。</p> <p>4 文科省からSSH支援事業の継続指定を受けている。これまでの成果を踏まえ、課題研究、科学系部活動の更なる発展を図るとともに、課題として、昨年度に引き続き小中学校への支援活動を推進したい。</p> <p>5 本校ホームページは、各種行事の変更や入学手続きに係る連絡事項の伝達、緊急時の広報手段として重要な役割を果たした。引続き内容の更新・充実に努めるとともに、校内の教育活動等の広報に力を入れていきたい。</p>	1 生徒の進路希望の実現を図る教科指導の充実とキャリア教育の構築	<p>① 校内及び校外研修を充実させ、教科指導力の向上を図る。</p> <p>② 進路講演会、キャリアガイダンス、大学模擬授業などの進路行事を通して、学習意欲や進路に対する意識を高める。</p> <p>③ 個別面談を通して生徒理解を深めるとともに、早期における志望大学の決定を促す。</p> <p>④ 国公立大学現役合格140名以上、難関大学への合格者数増加を達成するため、個に応じたきめ細かな学習指導や進路指導を行う。</p>	A	A
	2 自主的・能動的な学習習慣の確立	<p>⑤ シラバスを活用し、早い段階で授業中心の学習形態と自学自習の姿勢を指導する。</p> <p>⑥ 学習計画表を活用し家庭学習時間を把握するとともに、学習時間の確保を指導する。</p> <p>⑦ 学習室や図書室の利用を促進する。</p>	B	
	3 SSH事業の充実	<p>⑧ SSH講演会、自然科学体験学習、学校設定科目を通して科学的思考力を育成する。</p> <p>⑨ 海外セミナーを通して、プレゼンテーション力や英語活用力の向上を図る。</p> <p>⑩ SSH事業を充実・発展させ、地域の科学教育の拠点校としての役割を担う。</p>	A	
	4 国際理解教育の推進	<p>⑪ 各種コンクールや国際交流等の研修への参加を促し、異文化理解を推進する。</p> <p>⑫ 国際理解のための講演会の実施や、海外留学や海外の大学進学希望の支援を行う。</p>	B	
	5 特別活動や部活動への積極的な参加	<p>⑬ 生徒会活動や部活動などへの積極的な参加を促し、活力ある学校づくりにつなげる。</p> <p>⑭ 各種学校行事、委員会活動を通して、豊かな人間性やリーダーシップを培う。</p>	A	A
	6 規範意識の高揚と自律的で責任ある生活習慣の確立	<p>⑮ 服装指導や生活指導を通して、公共マナーや社会のルールを身に付けさせ、自発的に行動できる生徒を育成する。</p>	B	B
	7 施設・設備等の教育環境の改善・充実	<p>⑯ 校舎内外の清掃と教室の整理・整頓の徹底を図り、快適な学習環境を整える。</p> <p>⑰ 施設・設備等の安全点検を実施し、安全に生活できる環境を整える。</p>	A	A
	8 広報活動の充実 (保護者や地域への積極的な情報発信)	<p>⑱ 広報活動計画を作成して体系的・組織的な広報活動を行い、本校の教育活動及びその成果について、地域や中学校など外部への周知を図る。</p> <p>⑲ HP内容の更新に努め、常に最新の情報を掲載する。</p> <p>⑳ 学校案内委員会を中心に、様々な機会に中学校等を訪問し、積極的な広報に努める。</p>	A	A

評価項目		具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教科指導		各教科の目標・シラバス等に基づいた密度の濃い授業を展開する。(①⑤)	・年度初めに、生徒が活用し易いシラバスを作成するとともに、毎時間、綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。	A	(1) 成績上位層を伸ばす指導の工夫改善 (2) 観点別学習状況の評価法の研究
			・授業内容の点検を行い、より一層の授業改善に努める。	B	
			・観点別学習状況の評価を推進する。	B	
教科	国語	1 基礎学力の定着と応用力の伸長(④)	・到達目標の達成度を各単元毎に確認し、事後の指導の改善を図る。 定期的な小テストの実施(古典基礎の定着と応用発展・現代文の読解力・語彙力養成)	A	(1) 自学自習の習慣をつける指導の工夫
		2 表現への興味・関心及び表現力の向上(④⑦)	・読書指導の推進 図書部との連携による1・2年対象の読書感想文の実施、コンクールへの参加を促す。 学年と連携しての小論文講演会の実施。	A	
		3 自学自習力の養成(④⑤⑥)	・適切な自学用の教材の利用 現代文・古文・漢文の副教材やワークブックを使った、家庭学習の習慣化の指導。 教科書で学習した作者の他作品の紹介をし、読書活動につなげる。	B	
	地歴・公民	1 授業内容の工夫・充実(①④⑤)	・生徒が意欲的に参加できる授業の工夫を図る。 ・センター試験・私大記述に対応するため授業内容、副教材の精選や進度等の調整をする。 ・学習内容の把握・定着の充実を図るため視聴覚教材の積極的活用を目指す。 ・指導に生かす評価の工夫改善に努める。	A	(1) 生徒の実態や大学受験への対応を踏まえて、教育課程については次年度にかけて検討を加える。
		2 カリキュラムの検討(④⑤)	・新学習指導要領実施にともない、各学年での配当時間および単位数を検討する。	B	
		3 視聴覚機材の有効利用(①⑦)	・地歴公民の各分野における視聴覚教材を、積極的に活用し、生徒の興味・関心を高める。 ・それぞれの授業における、定期的な活用方法を検討する。	A	
	数学	1 基礎・基本の定着を図る。そのための有効な方策を実践・研究する。(⑤)	・(1年)教科書・問題集を活用し基礎計算力の充実を図るとともに、家庭における予習復習などの学習習慣の確立を図る。また、確認テストを実施し基礎力の定着を図る。 ・(2年)問題集を活用し、家庭での学習習慣の定着を図る。全生徒に数学Ⅱ+Bを最後まで取り組む姿勢をもたせる。また、定期考査等を活用し、基礎・基本の定着を図る。 ・(3年)問題演習の際、各項目の基本事項を確認し、基礎力の定着を図る。特に数学Ⅲ履修者には数学ⅠAⅡBの既習事項の確認プリントを配付し、基礎力の定着を図る。	B	(1) 中学数学の基礎・基本の定着が十分ではない生徒への指導 (2) 理工系の興味や関心を高める (3) 学習内容の本質を理解させる指導方法の工夫
		2 生徒の学力差や進路・個性に応じたきめ細かい指導法を工夫研究する。(⑤⑥)	・(1年)確認テストや定期考査の結果を活用し、基礎力の定着を図る。また、ノートやプリント等の提出を通して個別に指導助言を行う。 ・(2年)ノートやプリント等の提出を通して個別に指導助言を行う。また、確認テストや各習熟度別に希望者課外を実施し、より高い学力への到達を目指す。 ・(3年)ノートやプリント等の提出を通して、個々の能力に合わせて個別に指導助言を行う。また、習熟度を考慮した学習指導を行い、個々の目標達成のための実践力を身に付けさせる。	A	
		3 SSH事業を含む本校の実態を踏まえた教材の配置・選択をし、その指導法を実践・研究する。(④)	・大学入試に対応できるよう各大学・大学入試センター等からの入試情報に基づき、指導方法及び教材の選択について教員間の連絡・検討を密に行う。	B	
理科	1 自然科学への興味・関心を高めるとともに、科学的に探求する能力と態度を養成する。(⑤⑥)	・自然の原理・法則の理解を深めたり、思考力・判断力・表現力を身に付けるために、創意工夫して実験・実習を行う。 ・身近な科学的事象を認識させることで、学習への動機付けを図るとともに、科学的思考力を育成する。 ・調べ学習やレポート提出の機会を通して、自発的に学習する習慣を涵養、定着させる。	A	(1) SSH3期目に向けての取り組みと強化	
	2 スーパーサイエンスハイスクール(SSH)事業を推進する。(⑧⑨⑩)	・大学・研究機関との連携を強化・継続することにより、課題研究を円滑に進める。 ・研究手法や問題解決能力を身に付けさせ、研究者の基盤作りを図る。 ・SSHについて、教員間の共通した理解を図り、活動を円滑に進める。 ・小中学校支援を充実させ、また新教育課程の内容を十分反映させて事業に取り組む。	A		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題		
教 科	保健	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(①⑤)	・評価テスト問題の内容を検討し、授業改善を含め、身に付けさせたい学力についての評価を充実させる。	A	(1) 種目の組み合わせや、冬季のグラウンド状況等を十分に考慮したうえで年間計画を立て、生徒が最大限に活動できるようにする。	
		2 「生きる力」を身に付けさせる授業を実践する。(①)	・グループでの課題学習をはじめ、実習を取り入れた授業（アルコールパッチテスト・心肺蘇生法）や視聴覚教材やメディアの活用により、より良い行動の選択ができるように授業を実践する。	A		
	体育	1 評価活動の工夫及び授業の改善を図る。(①⑤)	・種目ごとの観点別評価活動の具体化と、授業改善を含め、学年の進行に合わせた、身に付けさせたい運動能力についての評価を充実させる。	B		(2) 種目ごとの観点別評価の具体化を進める。 (3) 用具や施設の安全点検を十分に行い、怪我の内容に授業を進められるようにする。
		2 授業で敏速な行動を身に付けさせる。(⑮)	・集団行動の実践を通して、日常生活においても敏速に行動できるようにする。	A		
		3 体力・運動能力の向上及び生涯スポーツへとつながる授業を実践する。(⑭)	・種目の特性に触れ、個人及び集団の活動を通じた課題解決学習の実践により、体力・運動能力の向上を含め、生涯スポーツへとつながるようにする。	A		
	芸術	1 個性豊かな人間性と情操の育成(①)	・近隣の美術館やホール等と連携し、鑑賞の質を向上させ授業に活かす。	A		(1) 育課程の変更に対応した新たな授業計画の検討 (2) 質の高い鑑賞指導の充実と時間の確保 (3) 震災により失われた教具教材の継続的な補充 (4) 各科目間の密な情報交換による相互理解及び協体制の強化
		2 創造性の伸長	・限られた時間の中でも展開できる教材を工夫する。 ・自由課題の設定によって総合的に創造性を伸ばす。	B		
		3 基礎表現力の育成	・生徒の実態、教育課程の変更に即した年間指導計画を立てて、丁寧な指導をし基礎力をつける。	B		
		4 個人の能力・進路に応じた指導(③④)	・個別指導に努め、個人の能力・適性に応じた細やかな指導をする。	A		
		5 芸術三科目間の協力推進(①)	・各科目間の情報交換を密にし連携をとって、常に芸術科の目標・問題点を確認する。	B		
		6 環境整備と教具教材の再生(⑯⑰)	・3号館耐震工事に関わる諸々の安全対策や、騒音対策を工夫し、安全な教育環境の確保に努める。 ・震災により失われた教具教材の計画的・継続的な再生を行う。	A		
	外国語	1 外国語学習の意義を認識させ、英語学習に対する意欲を高める。(④⑤⑥⑧⑨)	・英語の基礎学力の定着と向上を図る。	B	(1) 英語を用いて、自己表現をしたり自分の意見を述べるなど積極的にコミュニケーションを図る姿勢を引き続き育成する。 (2) 情報を共有し個々の生徒の能力や進路に対応した指導を継続して行う。	
			・A L TとのT Tやディベート活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。	B		
			・個人の能力、進路に対応したきめ細かい受験指導をする。	A		
			・センター試験のリスニングへの対応の充実と英作文指導を継続的に行う。	A		
			・英語表現やS Eの授業を通して、英語による基礎的なプレゼンテーション能力を育成する。	B		
	家庭	1 社会の変化に対応した指導の充実(①)	・最新の情報を精選して教材として使用する。	B	(1) 新実習室の環境整備を万全にして、より充実した実験・実習を行えるようにする。 (2) 授業の発展学習としてのホームプロジェクトの意義をよく理解させ、発表の方法も工夫し、学校家庭クラブ活動につなげていきたい。	
			・衣食住の他、保育・福祉・消費生活など幅広い知識を身に付けさせる。	A		
2 実験・実習、体験学習の工夫(①⑯⑰)		・限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を取り入れ、体験を通して具体的に学習させる。	B			
		・被服製作作品、実習ノート等を期限までに提出させる。	B			
		・調理実習時の身支度を徹底させ、安全、衛生面に十分留意するよう指導をする。	A			
3 ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進(①⑱)	・ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させる。 ・学校家庭クラブ活動に参加しやすい環境を整える。	B C				

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
教務部	1 SSHの研究成果を踏 まえた教育課程の編成 (⑧)	<ul style="list-style-type: none"> ・SSHの研究成果を活かす教育課程を編成する。 ・選択授業を整理する必要性なども視野に入れながら、水戸二高の将来像を見据えた、よりよい新教育課程を編成する。 ・教育課程編成における各教科間の共通理解を図る。 ・「総合的な学習の時間」の円滑な運営と効果的な内容の選択をする。 	A	A (1) 教育課程の自己点検、自己評価を通して、さらなる教育課程の研究に努める。 (2) 学校行事等の精選を行い、授業時間の確保に努める。
	2 各分掌間の円滑な連携 と教育活動の活性化 (④⑭)	<ul style="list-style-type: none"> ・校務分掌の円滑な運営と連携を図る。 ・自習時間をなくし、授業時間を確保する。 ・委員会活動の活性化を図る。 	A	
	3 外部への積極的な情報 提供 (⑱⑲⑳)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ビジョンの共通理解と広報活動を推進する。特に中学校に対して、6月と10月に新聞を発行し、本校の様子の周知に努める。 ・ホームページの更新頻度を維持し、さらなる充実を図る。 	A	
	4 校内成績処理システム の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・使いやすい成績管理システムの検討・再構築を図る。 	B	
	5 情報管理の安全性の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・成績や指導要録の電子データを確実に保管し、書き換え等による誤りが起こらないようなシステムを研究し、作成していく。 ・ホームページのデータを整理し、系統的にまとめる。 	A	
	6 校内研修の企画・運営 (①)	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の研修を企画する。 ・授業の質的向上のための研修を推進する。 ・人権教育の研修を企画する。 	B	
	7 学校評価の研究	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者・生徒への授業アンケートを実施する。 	A	
生徒指導部	1 基本的生活習慣の確立 (⑮)	<ul style="list-style-type: none"> ・身だしなみを整え規則正しい生活ができるよう、年間を通して「声かけ指導(呼びかけ・注意)」「問いかけ指導」を行う。 ・公共マナーの向上を目指し、マナーアップ運動・学期毎の全体指導・月初めの登下校指導を行い、生徒一人ひとりの規範意識を高める。 ・HR活動・学年集会・個別面接等での指導を通して、自律的な生活態度を育成する。 	B	B (1) スマホの利用についてのルール (2) ネット上の危険な行為についての周知 (3) 交通安全について、自転車の乗り方指導や点検の実施
	2 自主的活動の育成 (⑬⑭)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の生活の中で自己を見つめる姿勢が身に付くよう働きかけていく。 ・ボランティア精神を養うため校内外清掃を、学年・クラスで実施する。 ・環境問題に継続して取り組み、節電・ペットボトル・キャップ回収等を行う。 ・生徒会を中心に、学校行事・委員会活動・リーダー研修会(前後期2回)・ホームルーム活動・部活動等、積極的に取り組み、リーダーを育成する。 	B	
	3 交通安全指導の推進 (⑮)	<ul style="list-style-type: none"> ・茨城県警や水戸警察署に協力を依頼し、自転車の安全運転指導や交通安全講話を実施する。 ・交通安全週間に合わせて集中的に生活委員会・生徒会役員で登校指導を行う。 ・ホームルームで交通安全・交通マナーの指導を行う。 	B	
進路指導部	1 進路に対する意欲を高め、学習時間の確保と自学自習力の育成指導 自学自習の週平均時間数 〔3年〕30時間以上 〔1、2年〕20時間以上 (②⑤⑥⑦)	<ul style="list-style-type: none"> ・進路講演会、キャリアガイダンス等の実施。 ・全学講座(年間15日)や課外の計画・実施。 ・進路学習調査を定期的実施し、家庭学習時間の把握とそのデータの活用する。 ・自学自習の習慣を定着させるための提案を行う。 ・1年生を対象に、夏季休業中に集中学習会を実施する。 ・学習計画表を活用する。 ・学習室の活用を促す。 	B	(1) 今年度、新たに導入した次の行事について、その継続と熟成 ・集中学集会 ・大学・企業見学会 ・大学の模擬授業 ・難関大学受験ガイダンス

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
進路指導部	2 進路目標の設定および学習意欲の喚起による学力向上(①③⑤) 模擬試験での成績 [3年]河合塾マーク模試 偏差値 60以上20名 50以上120名 [2年]進研模試3教科総合 学年平均偏差値55以上 [1年]進研模試3教科総合 学年平均偏差値57以上	<ul style="list-style-type: none"> 授業中心の学習習慣の定着を確実なものにするため、主要3教科の重要性の認識と、その学習活動の実践を集会・広報を通して生徒に強く伝えていく。 進路資料・進路のしおり・個人面接用資料の作成と頒布、活用を推進。 学年との連携強化を図るために学年会などに同席する機会を増やすなどして生徒情報・進路情報の共有化を図る。 各種進路情報の学年・生徒への提供。 卒業生から聞く学習法（OGインパルス）の開催。学習・進学意欲を涵養する。 保護者会などを通して保護者との情報の共有化を図り、生活・学習面のバックアップ体制を築く。 	B	<ul style="list-style-type: none"> (2) 進路情報の発信 各種進路情報を保護者が確認できるようにHPの活用 (3) 1年次のコース選択が、各自の適性・希望等を踏まえて、適切に行われるためのガイダンスや講演会の充実 (4) 各自の適性を踏まえた上で、高い目標設定につながる意識付け。 <ul style="list-style-type: none"> 大学説明会及び講演会の活用 模擬試験の活用 (5) 新課程での入試に対応するための情報収集と提供
	3 生徒の第1志望実現のための援助促進 難関私立大学を含む国公立大140名以上合格の達成(③④)	<ul style="list-style-type: none"> 校外模擬試験の分析会や教員対象の進路研修会を実施する。 生徒の個に応じて、推薦入試活用の助言を行う。 大学入試センター試験出願説明会および国公立大学出願先検討会の計画・実施。 本校独自の学力向上案立案の奨励。 各学年の小論文指導担当と連携し小論文指導説明会開催と小論文模試への援助をする。 	B	
図書部	1 開かれた図書館とする。(⑦)	<ul style="list-style-type: none"> 各学年、教科、校務分掌と常に情報を共有し、連携に努める。 生徒の学習活動、課外活動等、学校生活全般において利用できる図書館運営を行う。 	B	<ul style="list-style-type: none"> (1) 3号館1階学習室の学習情報センター化 (2) 共通認識に基づくスタートプログラムの実施および担当者間の情報の共有化、プログラムのマニュアル化の推進
	2 「読書センター」としての機能の充実を図る。(②)	<ul style="list-style-type: none"> 前期・後期1回ずつ校内読書週間を実施し、LHR読書会を開く。 LHRを利用した読書活動を、年1回実施する。 図書等の資料の充実を努める。 図書委員会読書会を年3回程度企画、実施する。 	B	
	3 「学習・情報センター」として資料の提供および利用指導を行う。(②⑬)	<ul style="list-style-type: none"> 3号館1階学習室に学習情報センターを設置する。 図書館を利用して「道徳プログラム」を行う。 図書等の資料の充実を努める。 使用全教科書を閲覧できるようにしておく。 職員からの図書購入希望に随時対応する。 図書館内に教科学習資料の展示を適宜行う。 LHRのための視聴覚資料の充実を図る。 図書館を利用する授業に対し、資料利用のオリエンテーションを行う。 新任者、新入生に対し、図書館利用のオリエンテーションを行う。 小論文の指導における資料提供に積極的に協力する。 	B	
	4 図書館の積極的な利用を推進する。(⑦)	<ul style="list-style-type: none"> 早朝開館（AM8：00～）を実施する。 教科・学校行事との連携に努める。 生徒の図書購入希望を反映した選書に努める。 職員によるミニ講演会を、年3回企画し、図書館にて実施する。 	A	
	5 日常のレファレンスサービスを推進する。(⑦)	<ul style="list-style-type: none"> 教科からの資料相談に応える。 生徒からの資料相談に応える。 公共図書館と連携をし、資料提供を行う。 	A	
	6 生徒図書委員会の充実を図る。(⑭)	<ul style="list-style-type: none"> 毎週定例の図書委員会を開く。 生徒図書委員の校外研修を行う。 中央・水戸地区の研修会に積極的に参加する。 図書委員による特集を組んだ本の展示や読書会を定期的に行う。 生徒図書委員による図書の選定、店頭選書を行う。 「図書館便り」「図書館報」読書感想文集「心の糧」の発行を行う。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
保健厚生部	1 校舎内外の清掃の徹底と環境の整備 (16)(17)	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミの分別処理・減量化を呼びかける。 ・清掃の徹底と教室内の整理・整頓 ・校舎内外の安全点検 ・教室内の暑さ対策 	B	(1) 夏季における教室のエアコン使用の方法の共通理解をはかり、教室の環境を整える。 (2) 冬季における省エネを心がけ、ファンヒーターの使用とエアコンの使用のバランスを良くする。 (3) 奨学金の提出書類の作成手続きをスムーズに行えるよう心がける。
	2 健康の保持・増進	<ul style="list-style-type: none"> ・心身の健康状態の把握に努め、適切な指導・援助を行う。 ・健康相談活動を推進する 	A	
	3 防災に対する意識の高揚	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時に適切な行動がとれるよう情報を提供し、安全に避難できるようにする。 	B	
	4 奨学生関連事務の的確な運営	<ul style="list-style-type: none"> ・奨学生募集の情報を確実に伝達する。 ・提出書類作成手続きの指導を適切に行う。 	B	
渉外部	1 P T A活動のより一層の活性化を図る。(18)(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A諸行事へ積極的に参加する。 	A	(1) P T Aの諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表に生かすことに重きを置きたい。
	2 保護者との連携のもとで生徒の学習環境の整備を進める。(18)	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A役員間の信頼と連帯強化を図る。 ・学習諸活動の環境整備、および学校活性化のための提言を行う。 ・P T Aの諸活動の記録を蓄積し、今後の活動や研究発表等に生かす。 	C	
	3 同窓会「秀芳会」との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・更なる連携を推し進め、本校の教育活動への各種支援に対する理解を深める。 	A	
S S H部	1 「次世代を担える科学的素養を備えた女性」の育成(2)(4)(8)(18)(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し、科学的思考力、表現力等の向上に努める。 ・S S H講演会を年2回開催し、科学的教養及び学習生活に対する意欲の向上を図る。 ・自然科学への導入として、1年生希望者を対象に「自然科学体験学習」を実施し、自然及び環境に対する知識と理解を深める。併せて発表会を実施することによりプレゼンテーション能力を高める。 ・各種講演会や体験活動の広報を行い、科学的素養の向上に努める。 ・事業の実施においては、全職員の協力のもと推進する。 	B	(1) 理科教育に対する小・中学校との連携と、本校生のインタープリターとしての活動の充実 (2) S S 課題研究の自主的研究態度の深化 (3) 他教科との連携 (4) 本校S S H事業の広報活動の推進 (5) S S H3期目に向けての取組の強化
	2 「積極的に世界を目指す女性科学者育成」の基盤づくり(4)(9)(11)(12)(13)(18)(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・関係する学校設定科目を生徒の実態に応じて展開し、知識・理解及び科学的思考力等の向上に努める。 ・「S S 課題研究」「科学系部活動」を行い、研究に対する主体性や科学的実践力、情報収集力及びプレゼンテーション能力の向上を図る。 ・「サイエンスイングリッシュ」・「海外セミナー」を行い、実践的英語力、国際性を育成する。特に「海外セミナー」では、アメリカで活躍する研究者の講演、現地高校生との交流及び相互プレゼンテーション等により、女性科学者育成の基盤づくり等を行う。 ・事業の実施においては、全職員の協力のもと推進する。 	B	
	3 「小・中学校に対する科学への夢を育むための教育支援」の研究と実践(10)(18)(19)	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校、茨城大学及び水戸市次世代エキスパート育成事業において、本校生がインタープリターとして小・中学生に体験実験の指導を行い、科学に興味関心を持つ子供たちの裾野を広げる。 	B	
国際理解教育部	1 異文化理解教育の推進(11)(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外で国際交流、協力活動をしている人たちの講演会を実施する。 ・国際理解の文化活動への参加を促す。 	A	(1) 地球的視野を持つ生徒の育成については、より一層具体的な働きかけをしていく必要がある。
	2 多文化共生社会の認識(11)	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な文化や価値観を持つ人々との交流会への参加を促す。 	A	
	3 地球的視野を持つ生徒の育成(12)	<ul style="list-style-type: none"> ・海外進学及び留学への支援を積極的に行う。 	B	

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度（学期）への主な課題
第1学年	1 自己実現を支える生活習慣の確立 (③⑤⑥⑬⑯)	・「今・未来手帳」を活用して、計画・実施・確認・振り返りを行わせることで、学習スタイルを確立させる。 ・公共マナーや社会ルールを身につけ、自発的に行動できるよう生活指導していく。 ・清掃や整理整頓を常に心がけるようにさせ、落ち着いた学習環境を作る。	B	(1) 手帳の活用をさらに促すような手段を考える（計画・実行・振り返りを確立させる）。 (2) 復習を徹底させ、基礎力の定着と進路を意識した学習活動を実践させる。 (3) 小テストに対してその場しのぎになっていて学力が定着していない生徒への指導を考える。 (4) 放課後に行っている国際理解のためのワークショップへ多くの生徒が参加するように促す。 (5) 国際理解も念頭において、修学旅行の事前・事後指導を充実させる。
	2 学習習慣の確立と学力向上 (②⑤)	・予習・復習を徹底させ、授業を大切にす姿勢を身に付けさせる。 ・英・数・国の小テストを毎週実施し、基礎力の定着を図る。 ・進路講演会、キャリアガイダンス、大学・企業見学などの進路行事を通して、学習意欲や進路意識の向上を図る。	B	
	3 国理解教育の推進 (⑪・⑫)	・国際理解のための講演会や海外研修を実施し、異文化理解を推進する。	B	
	4 思考力・プレゼンテーション力の養成 (⑧⑨)	・道徳の調べ学習や、自然科学体験学習・海外研修などの事前学習・事後のまとめ学習を通して、論理的に考える力やプレゼンテーション力を養成する。	A	
	5 特別活動等への積極的参加 (⑬⑭)	・個人面談等を通して、HR活動・生徒会活動・部活動への積極的な参加を支援し、学校生活の充実を図る。 ・みやび祭やクラスマッチを通して、豊かな人間性やリーダーシップを育てる。	B	
第2学年	1 生活習慣の確立 (⑮⑯)	・公共マナーや社会ルールを身につけ、自発的に行動できるよう生活指導をしていく。 ・服装・頭髪指導を継続して実施し、身だしなみに意識を持たせるとともに、基本的な生活習慣を身につけさせる。 ・集団のあり方を考え思いやりの気持ちを育成できるよう環境作りをする。	B	(1) 貴重品の管理等、危機管理意識を高める。 (2) 進路実現に向けて学力を向上させる。
	2 進路目標の明確化 (①②③④⑥)	・生徒面談を通して、より具体的に進路先を決定できるよう支援する。 ・生徒一人ひとりの理解度に合わせた学習法の助言を積極的に行い、得意科目を伸ばし、苦手科目の克服を手助けするなど、きめ細かな指導をする。	B	
	3 特別活動等でのリーダーシップの育成 (⑬⑭)	・HR活動・生徒会活動・部活動において活力ある学校作りの中心となって活躍できるように支援する。 ・修学旅行をよりよいものとするために事前研修の内容を充実させる。	A	
	4 総合的な学習の時間の活用と思考力の育成 (⑧⑨⑫)	・白百合セミナーでの講演会（SSH講演会・国際理解教育講演会）や課題研究を通して、科学や国際社会に対する興味・関心を喚起し、視野を広げられるようにする。 ・Sクラスにおいては研究等の体験を通して科学的な事象を論理的に考える力やコミュニケーション能力を高める指導をする。	A	
第3学年	1 進路目標の明確化と進路希望の実現 (①②③④)	・生徒面談や進路講演会等を通して目標の確認・修正を行う。 ・模擬試験の結果を分析し、進路選択の指導・助言を積極的に行う。 ・進路指導部と連携し、的確な入試情報を提供し、意識の高揚と意欲の喚起を図る。	B	(1) 進路指導部と協力しながら、セミナーなどの行事を通して意識の高揚に努めてきたが、対象生徒や実施内容については検討の必要がある。 (2) 模試については、分析結果を教科と共有する必要がある。 (3) 服装指導については、休み時間や授業中を含めて継続的な指導が大切であろう。
	2 規範意識の確立と品位の向上 (⑮)	・時間厳守や規則の遵守など社会生活のモラルを学校生活においても認識させる。 ・服装指導・学年集会等を通して、きめ細かな指導を継続的に行う。	A	
	3 特別活動等の充実 (⑬⑭)	・最高学年としての自覚を持たせ、高校生活の集大成として諸活動へ意欲的に参加できるように環境作りをする。 ・みやび祭やクラスマッチの実行にあたり、リーダーシップを発揮し、中心となって活躍できるように支援する。	A	

※ 具体的目標の後のかっこ内の数字は、1ページの学校の重点目標①～⑳との関連を示す。

※ 判定基準：A…非常に良くできた B…良くできた C…普通 D…やや不十分 E…不十分